

(様式6-A)

信澤愛子 氏から学位申請のため提出された論文の審査要旨

題 目

Immunohistochemical staining patterns of cytokeratins 13, 14, and 17  
in oral epithelial dysplasia including orthokeratotic dysplasia  
(正角化性上皮異形成を含む口腔内上皮異形成におけるCytokeratin 13、14、17発現の  
免疫組織学的検討)

Pathology International (in press) [英語論文]

Aiko Nobusawa, Takaaki Sano, Akihide Negishi, Satoshi Yokoo, Tetsunari Oyama

論文の要旨及び判定理由

口腔内上皮異形成の病理組織学的診断は困難で、病理医間や施設間でも差違が認められることが問題としてあげられる。近年、WHOの定義する上皮異形成の分類とは異なる、口腔上皮特有の上皮内癌の存在が報告され、さらに診断が複雑となった。今回の研究は、口腔内上皮異形成について、Orthokeratotic dysplasia (OKD) を含め病理組織診断に有用なCytokeratin(CK) 13、14、17の発現パターンを免疫組織学的に明らかにすることを目的とした。CK13+17およびCK13+17/14のカクテル抗体を作成し、二重染色法を用いて評価した。結果、CK17は中等度異形成以上の異形成や腫瘍性変化を、CK14は、より軽度な異形成の存在を評価するにあたり有用と考えられた。この発現パターンは、OKD病変においても認められるものであった。この研究結果は、日常の病理組織診断に極めて有用であると認められ、博士（医学）の学位に値するものと判定した。

(平成26年2月3日)

審査委員

主査	群馬大学教授（医学系研究科） 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野担任	近松  一郎	印
副査	群馬大学教授（医学系研究科） 生体構造学分野担任	松崎  利行	印
副査	群馬大学教授（医学系研究科） 腫瘍放射線学分野担任	中野  隆史	印

参考論文

1. Bizarre parosteal osteochondromatous proliferation of the maxilla: a case report.  
(上顎に発生した傍骨性骨軟骨異型増生の1例)  
Oral Surgery, Oral Medicine, Oral Pathology, Oral Radiology 114: e20-4, 2012.  
Nobusawa A, Sano T, Negishi A, Yokoo S, Yamaguchi T, Oyama T
  
2. Diagnostic usefulness of (18)F-FAMT PET and L-type amino acid transporter 1 (LAT1) expression in oral squamous cell carcinoma  
(口腔扁平上皮癌の診断におけるFAMT-PETおよびLAT1発現の有用性)  
European Journal of Nuclear Medicine and Molecular Imaging 40: 1692-700, 2013.  
Nobusawa A, Kim M, Kaira K, Miyashita G, Negishi A, Oriuchi N, Higuchi T, Tsushima Y, Kanai Y, Yokoo S, Oyama T

（様式6，2頁目）

最終試験の結果の要旨

- ・ 口腔のdysplasiaについて
- ・ OED, OINの病理学的分類と臨床的意義について

試問し満足すべき解答を得た。

（平成26年2月3日）

試験委員

群馬大学教授（医学系研究科）  
顎口腔科学分野担任 横尾 聡 印

群馬大学教授（医学系研究科）  
病理診断学分野担任 小山 徹也 印

試験科目

主専攻分野 顎口腔科学 A

副専攻分野 病理診断学 A